



発行
長崎県高等学校教職員組合
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
☎ (095)-827-5882
Fax (095)-826-2976
編集責任者 佐藤真一郎
購読料 一部10円
組合員は組合費を含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp



医療共済 全教共済
新型コロナ
ウイルス感染症
ホテル・
自宅療養で
給付します

司書専門部県教委交渉

専任の学校司書配置を強く要求

高教組は2月8日、学校図書館に正規で専任・専門の学校司書の配置ならびに学校司書の賃金等待遇改善を求める県教委交渉を行いました。交渉には、高教組から本部役員4人と司書部専門委員として高橋誠司さん(西陵)、坂下里美さん(島原定)が参加しました。県教委は高稲教職員課長、初村人事管理監他6人が対応しました。

重点要求は、①時給 (県立学校図書館職員 (司書)) の配置校を 学校に正規・専任・専 制の学校司書の報酬額 (司書) の配置校を 門の学校司書を配置す を引き上げ、勤務時間 増やし月額報酬を引き ることの3点です。要 を大幅に増やすこと、 上げること、③すべて 求に対する県教委の回 ②有資格の学校司書 の県立高校・特別支援 答は前回交渉の域を超 拡充することを中心に 県教委の考えを質しま した。



高教組出席者：右から鍛冶執行委員長・坂下(島原定) 寺田書記次長・高橋(西陵)・勝村執行委員



県教委側出席者：左から浦野総括課長補佐・川端職員免許班参事・高稲教職員課長 初村人事管理監・本村人事班参事・近藤管理班課長補佐・白井課長補佐

県教委に令和2年度 17校、令和3年度19校、 今年度19校の配置であ ることを示させ、高教 組は令和2年度29校配 置と文科省に回答した 理由と令和4年度の19 校の、この10校減の説 明を求めました。県教 委は、令和4年度19校 分は県教委として任命 し配置している学校司 書と説明し、令和2年 度については29校のう ち17校はこの県教委の 任命での配置で、12校 は学校内で実習教員や 現業職などをやりくり して専任として置いた

り、もしくはほとんど 主として学校図書館の 業務をしてもらってい ると答え、令和4年度 も19校以外にも16校が 各学校として置いてい ることを明らかにさせ ました。

高教組は前回交渉の 時点から県の責任で配 置校を増やしていない ことを指摘すると、県 教委は限られた財源で、 配置されない学校に、 数多く配置することを 優先的に行ってきたと これまでと同じ回答を しました。また本来の 業務との兼務で主とし ては図書館業務ではな いが、そういう学校が 17校あり、合わせると 52校で図書館を担当す る職員がいるとして、 その割合がそこまで含 めると93%と説明しま した。

参加した高橋・坂下 専門委員から専門で専 任、正規の学校司書が 必要なことを次のこと を骨子に説明し、改善 を求めました。

《坂下委員》

①正規専任の司書がい るということ、生徒 が主体的に学ぶ力がつ くこと。②司書が生徒 の学びに大きな影響を 与えるということ。③ 会計年度任用職の報酬 額が少なく転職を考え ている人が増えたこと。 キャリアとか実績・技 術を有している学校司 書が他県で働くしかな い。これは長崎県にとつ て非常に大きな痛手で あること。

《高橋委員》

①生徒の授業や進路の サポート、研修参加に 対応できるよう勤務時 間を10時間、20時間増 やすこと。②研修の機 会を保障すること。年 1回の教育研究会の学 校司書研究会総会に11 校しか参加できていな い。③オンラインで研 修に参加できるように、 図書館にWifiを整 備すること。一人一台 パソコンを渡すこと。

④学校図書館の利用状 況調査に、授業で使っ た時間や公立公共図書 館から何冊使ったかを 入れること。

交渉の最後に、高教 組はあらためて正規で 専任、専任の学校司書 を配置すること、学校 内のやりくりでとにかく 配置数を増やすとい う方針はやるべきと 批判しました。

県教委は、学校司書 の必要性は十分に理解 できているとし、検討を 十分に行っていくたいと 現時点での考えを示す のみでした。これから も正規で専門、専任の 学校司書の配置を増や すべきです。」(坂下)

「交渉の中で、新たな 情報が得られ、参加し てよかったと思ってい ます。言いたかったこ とも、ほぼ全て発言す ることが出来ました。」 (高橋)

高校教育シンポジウムに山梨

1月28、29日に22 年度高校教育シンポジ ウムが山梨県石和温泉 で開催され、長崎から は、佐藤書記長と勝村 執行委員(波佐見)が 参加しました。27日午 後に開会行事とシンポ ジウム・4つの分科会、 28日午前以前日に引き 続き4つの分科会が行 われました。

全体会では秋上チキ氏 による「ネットいじめ・ いじめの実態、なぜ起 こるのか」について講 演が行われました。

第3分科会では、大 学入学共通テストへの 「情報」必修化問題に ついて及び観点別評価 についての報告が行わ れ、子どもたちへ確かな 学力をつける観点から 討論が行われました。

第4分科会では、「子 どもたちのねがいや高 校における特別ニーズ に応える教育のあり方 を考えよう」をテーマ として、2本のレポー トと1本の報告を軸に 討論が行われました。

「ある生徒との関わり から」(北海道高)で は、初めての担任とし てクラスと生徒との日 常での関わりから感じ ることや悩みなどが報 告されました。「長野 県の高校における高校 生活支援相談員の配置 と課題」(長野高)で は、外国由来生徒の高 校における現状と課題、 高校生活支援の状況と 課題について報告がな されました。「通信制

高校をめぐる最近の動 向」(山梨大学)が報 告され、広域通信制高 校の拡大の実態と課題 が報告されました。参 加者はそれぞれの視点 から意見を述べ、疑問 点やアドバイスを、悩み の相談まで、多岐にわた った討論が行われま した。生徒や保護者の 教育ニーズ答えるため に、何がなるかを 考えさせられる機会と なりました。

組合は であい ふれあい たかめあい

実習教員部中国・四国・九州ブロック 学習交流集会in佐賀

1月28〜29日に佐賀県吉野ヶ里天然温泉ホテルにて中国・四国・九州ブロック学習交流集会が開催されました。昨年は1年延期から岡山県主催のオンラインで開催されましたが、



2日目のフィールドワーク@吉野ヶ里歴史公園

今年は3年ぶりとなる参集型で開催することができました。各県から佐賀県吉野ヶ里に5県28名がつい大盛況のうちに終わりました。本県からは、東川部長(鹿町工)、浦本先生(長工)、濱村

(佐世保西)が参加してきました。

初日は各県の組織状況、問題ととりくみについて、近年の県教委交渉成果等や活動領域の拡大についての問題ととりくみなどについて報告があり、その後質疑応答を行い、最後は全実習教員部の魚住部長が全体のまとめをして終わりました。各県の組合の組織率について山口県は全国No.2、さらに中国・四国・九州ブロックをみても他のブロックとくらべても1番ということ、それだけ繋がりが強くなっているブロックであると改めて感じました。また、日頃よりいろいろな自分たちの立場等の実状について、これはおかしいのではないか?と問題意識を持ち県交渉に臨んでい



2023年2月4日〜5日 青年部209人が参加した。@全日本教職員組合7F

全国青年教職員学習交流集会「TANEE」 部活動の今とこれから

・る現状を聞き、私たち実教部はこれからも全国の繋がりを大切にしていけないと思いました。最後に全実習教員部の魚住部長より、実教部の最終的な問題のポイントは定数法が問題であり、これについてももう少し研究が必要だが制度改革を訴えてから20年が経とうとしている。その間に働

き方改革等があり、私たちの環境が大きく変わってきているので、今後改めて検討が必要であり、現場の声が大事。実態に即して訴えていくとよいとまとめられました。その他、採用問題については私たちの職種だけが障害者枠の採用があり、平等に採用するのであればどの職種にも枠があってもいいのではないかと

全国青年教職員学習交流集会「TANEE」に参加した所感をお話したいと思います。まず、大阪府の公立中学校社会科教師である平井美津子さんによる全体講演を拝聴しました。内容は平井さんの教師としての経験談と平和教育についてでしたが、平井さんの軽妙な語り口と闊達な人柄もあって、退屈することなくお話に集中することができました。特に感心したのは、平井さんご自身が精力的に取り組んでおられるテ

マ同士を結びつけ、系統的・体系的に授業に取り組みれている点です。慰安婦問題を授業で取り上げる際には平和教育としての視点だけでなく、性教育としての視点も有しなればならない。性の意識が十分に成熟していないのに不意に慰安婦問題を扱うと、性差別意識やジェンダー・バイアスなどを生む危険性がある点に触れ、性教育にも注力されておられるとのことでした。教師として首尾一貫した、一本筋が通った方

だと思いました。次の日の講座では部活動の地域移行について講話を聴き、グループ討議を行いました。拙速な地域移行は地域間の格差を拡大させるから反対だという指摘には首肯しましたが、現在でも学校間の部活動格差は厳然として存在しています。大規模な学校の生徒は多くの部活動のなかから選択ができるが、小規模な学校の生徒は選択肢が少ない。都市部では他校との合同練習が実施しやすいが、離島や山

話され、参加した皆さんは元気をもらったと話していました。二日目は、吉野ヶ里歴史公園を見学しました。吉野ヶ里遺跡は福岡ドーム6個分の広さを持つ弥生時代の代表的な遺跡です。専門のガイドさんから吉野ヶ里遺跡の発見された経緯から弥生時代の全ての時期の遺構・遺物などの説明を聞きながら

間部では交通の問題もあってそれが難しい。それは子どもたち自身が自ら選択した結果だと主張する方もいるかもしれませんが、全ての子どもたちが自分の行きたい学校をそれほど自由に選べるわけにはありません。それに加えて、「地元の学校に行きたいけど、入りたい部活動がないから行かない」という消極的な選択を社会が子どもたちに強いている現状があります。

弥生時代の暮らしを学びました。歴史公園はとてキレイに整備されており、国内だけではなく海外からの観光客も多く訪れているそうです。久しぶりに会った仲間との会話も弾み、またお互いの情報交換も行い充実した2日間でした。開催をしてくださった佐賀高教組の皆さま大変お世話になりました。来年度は長崎で夏に開催を予定しております。たくさん参加をお待ちしております。

部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。

部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。

部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。部活動にいくつかの問題があることは分かっています。